

大阪商業大学学術情報リポジトリ

大学初年次生が持つコンピュータのイメージ情報
系基礎科目での18年間のアンケート結果からー

メタデータ	言語: ja 出版者: 大阪商業大学商経学会 公開日: 2018-05-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 正木, 幸子, 佐藤, 敦子, 中谷, 陽仁, 横山, 宏, MASAKI, Sachiko, SATO, Atsuko, NAKATANI, Akihito, YOKOYAMA, Hiroshi メールアドレス: 所属:
URL	https://ouc.repo.nii.ac.jp/records/516

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



大学初年次生が持つコンピュータのイメージ

－情報系基礎科目での18年間のアンケート結果から－

正 木 幸 子
佐 藤 敦 子
中 谷 陽 仁
横 山 宏

- 1．はじめに
- 2．アンケート調査の概要
- 3．コンピュータへの興味の状況
- 4．コンピュータに対するイメージの状況
- 5．卒業後にコンピュータにどのように関わりたいかの状況
- 6．おわりに

1．はじめに

本稿では、文系大学に入学してくる学生らに開講している情報系基礎科目において、学生らの受講者意識を把握することで、講義内容（テーマ、トピックス、提示資料、小テスト、評価方法など）を見直すことをねらいとした調査を、18年間（1998年～2015年）に渡って行ってきたもののなかから、学生が持つコンピュータのイメージに焦点をあててまとめたものである。

筆者は、初年次教育でのコンピュータ基礎科目が担う役割を意識して担当してきた科目において、コンピュータの利便性はもとより、情報社会にうまく付き合っていくには、コンピュータのメリット・デメリットを広く浅く理解した上で、コンピュータを活用していく賢い知識を身に付けることが肝要だという講義を心掛けてきた。そのため、学生がもつコンピュータのイメージに即した視点で授業内容を構成するようにしている。今回の結果からは、学生が持つコンピュータのイメージはゆるやかな変化であることが分かった。目覚ましく発展する情報社会ではあるが、初年次教育においては、ゆるやかではあるが、確実な変化に対応していくことが重要であると分かった。

以上のような方針に基づき実施する授業において、学習者の事前状況や授業を受けての変化がみられるかなどについて、情報系基礎科目を担当することになった1998年から2015年度まで、ほぼ同じ内容の調査を実施してきた。

2. アンケート調査の概要

(1) 実施の背景

筆者は、副専攻の「情報処理概論」を19年間担当してきている。これまでの受講者数は約12,300名である。科目の現在の詳細なものは Web シラバスに譲るとして、授業計画の1998年当時のものを以下に示す。

授業計画 (1998年)

- 1 ガイダンス 授業を受講するうえでの重要事項を最初にまとめて説明する。
- 2 情報、情報処理について
- 3 身近な情報処理 1
- 4 身近な情報処理 2
- 5 身近な情報処理 3
- 6 情報社会とコンピュータ
- 7 コンピュータのハードウェア 1
- 8 コンピュータのハードウェア 2
- 9 コンピュータのソフトウェア 1
- 10 コンピュータのソフトウェア 2
- 11 コンピュータのソフトウェア 3
- 12 情報処理システムの処理形態
- 13 ネットワーク (LAN 等) ネットワーク社会 (個人情報、インターネット、情報倫理、その他)

これらの項目名は、現在も大きくは変えていないが、扱うトピックスや提示資料などは、技術進歩に伴う日常生活の変化に合わせて、授業内容の更新を毎年行なっている。そこでは、学生の興味関心を引くことを意識するのはもとより、日常ではなかなか見えにくいコンピュータ利用の事例を紹介し、コンピュータに親しみをもってもらうことを心がけている。とりわけ、正しい理解を持たなければ、情報社会でうまくコンピュータと付き合うことが難しい面もあることを伝えている。そこでは、時には厳しい表現で説明しなければ伝えにくいこともあるので、学生の事前・事後の反応をとらえることは重要である。

学習項目にコンピュータのハードウェアがあるが、2進数や回路などの学習は、徐々に減らしてきた。今は0と1だけの簡単な内容にしている。また、図や写真を多くし、ビジュアルに伝わる内容にしている。身近で、幅広いコンピュータの利用例を取り上げ、広く浅く、良いイメージを伝えることに徹している。コンピュータの奥深いことに興味がある人へは、コース科目を紹介している。もちろん、宿題や提出物もあるが、基礎的なものに限定している。試験(穴うめ、記述なし)は、持ち込みなしである。これは、持ち込みをすると勉強しないので、模索した結果、持ち込みの有無は成績に大きな関係がないと分かったからである。

（2）調査項目

調査項目の詳細（1998年度版）を付録で紹介しておく。現在に至るまで、選択肢の細部などは数回に渡って更新してきたが、質問の構成は、ほぼ同じものである。ただし、情報教育が高等学校で必修化されたことによって、情報の学習経験を問う質問内容のみ大きく変えざるを得なかった。その他の質問内容は、18年間（1998年～2015年）において、ほぼ同じものである。以下に調査項目の概要を示す。

- Q 1 情報教育の学習目的は何か
- Q 2 情報の入手先は何か
- Q 3 情報教育を受けた経験はあるか（※2006年度から大きく内容に変更あり）
- Q 4 コンピュータに興味があるか
- Q 5 コンピュータに対するイメージはどのようなものか
- Q 6 授業以外でコンピュータに接しているか
- Q 7 卒業後の希望として、コンピュータとどのように関わりたいと思うか
- Q 8 家にコンピュータがあるか
- Q 9 インターネットが使える環境はあるか
- その他

筆者は、すでに共同研究者らと、全学的に入学者を対象とした「大学入学前のパソコン利用状況の推移」など、高等学校での情報教育の必修化に伴う影響の調査報告を行なっている¹⁾。そのため、今回の報告では、それらと重なる項目は省くものとする。あくまでも科目担当者として、科目の授業改善の範囲での興味関心で18年間に渡った調査結果の中から、初年次生としての大学生がもつコンピュータのイメージについてまとめるものである。

調査は、B 4 サイズ 1 枚の調査用紙を受講者に配布し、無記名・任意協力で、授業の初回のガイダンス時と最終回の授業のまとめのときに実施している。授業の初回は、履修が確定していない者は参加していないので、調査対象には入っていない。また、授業の最終回も、放棄者や欠席者は含まれていない。表 1 に履修者数とアンケートの回収数、回収率を示す。履修者数を用いているのは、当該科目が副専攻で全学生が受講できるという科目の特性を把握するためのものである。

表 1 において、2007年度の調査では、前期月火 4 の最終回の調査は、病気のために代講で対処して頂いたもので、調査が実施できなかった。また、2009年度は、最終回での調査の回収数が他よりも一桁少なくなっていて、以後の比率計算でグラフの変化率に影響が出ているので、2007年度と2009年度の変化に対しては、解釈に慎重さが必要となっている。

1) 高橋美貴、福島裕、樽磨和幸、正木幸子、佐藤仁、北室康一「大学入学前のパソコン利用状況の推移－2000年度～2007年度新入生アンケートの結果から－」『大阪商業大学論集』第151・152号合併号、2009年

表1 履修者数とアンケート回収数の推移

				履修者数(人)		アンケート回収数(人)					回収率(%)			
年	開講年度	開講時期	開講クラス	全学年	1年生のみ	全学年 (授業初回)	全学年 (授業最終回)	1年生のみ (授業初回)	1年生のみ (授業最終回)	全学年 (授業初回)	全学年 (授業最終回)	1年生のみ (授業初回)	1年生のみ (授業最終回)	
1	1998	通年	情報処理概論(月4)	388	303	349	203	289	161	89.9%	52.3%	95.4%	53.1%	
		通年	情報処理概論(火4)	219	176	193	168	169	142	88.1%	76.7%	96.0%	80.7%	
2	1999	通年	情報処理概論(月4)	484	380	370	208	329	172	76.4%	43.0%	86.6%	45.3%	
		通年	情報処理概論(火4)	283	219	150	155	118	135	53.0%	54.8%	53.9%	61.6%	
3	2000	通年	情報処理概論(月4,3)	195		93	99			47.7%	50.8%			
		前期	情報処理概論(月4)	209	209	138	145	138	145	66.0%	69.4%	66.0%	69.4%	
		後期	情報処理概論(月3)	321	321	189	178	189	178	58.9%	55.5%	58.9%	55.5%	
4	2001	通年	情報処理概論(火5)	58		15	20			25.9%	34.5%			
		前期	情報処理概論(火5)	203	146	114	119	91	97	56.2%	58.6%	62.3%	66.4%	
		後期	情報処理概論(月3)	375	298	240	168	204	136	64.0%	44.8%	68.5%	45.6%	
5	2002	前期	情報処理概論(月3)	704	460	311	362	225	269	44.2%	51.4%	48.9%	58.5%	
		後期	情報処理概論(火5)	122	67	69	73	43	48	56.6%	59.8%	64.2%	71.6%	
6	2003	前期	情報処理概論(月3)	912	497	466	406	272	253	51.1%	44.5%	54.7%	50.9%	
		後期	情報処理概論(火5)	149	81	80	91	49	54	53.7%	61.1%	60.5%	66.7%	
7	2004	前期	情報処理概論(月4)	340	210	165	208	119	143	48.5%	61.2%	56.7%	68.1%	
		前期	情報処理概論(火4)	321	232	175	206	148	161	54.5%	64.2%	63.8%	69.4%	
		後期	情報処理概論(火5)	81	40	37	49	28	28	45.7%	60.5%	70.0%	70.0%	
8	2005	前期	情報処理概論(月4)	215	163	130	47	120	45	60.5%	21.9%	73.6%	27.6%	
		前期	情報処理概論(火4)	361	280	182	228	157	190	50.4%	63.2%	56.1%	67.9%	
		後期	情報処理概論(火5)	59	28	26	31	19	14	44.1%	52.5%	67.9%	50.0%	
9	2006	前期	情報処理概論(月4)	192	149	132	145	111	118	68.8%	75.5%	74.5%	79.2%	
		前期	情報処理概論(火4)	210	125	110	24	89	10	52.4%	11.4%	71.2%	8.0%	
		後期	情報処理概論(火5)	69	42	18	41	10	25	26.1%	59.4%	23.8%	59.5%	
10	2007	前期	情報処理概論(月4)	244	181	143		119	—	58.6%	—	65.7%	—	
		前期	情報処理概論(火4)	373	238	218		176	—	58.4%	—	73.9%	—	
		後期	情報処理概論(火5)	70	37	25	34	17	20	35.7%	48.6%	45.9%	54.1%	
11	2008	前期	情報処理概論(月4)	455	333	157	227	109	187	34.5%	49.9%	32.7%	56.2%	
		前期	情報処理概論(火4)	269	123	136	140	57	72	50.6%	52.0%	46.3%	58.5%	
		後期	情報処理概論(火5)	51	28	16	26	7	12	31.4%	51.0%	25.0%	42.9%	
12	2009	前期	情報処理概論(月4)	556	354	393	19	289	3	70.7%	3.4%	81.6%	0.8%	
		前期	情報処理概論(火4)	283	114	182	5	100	5	64.3%	1.8%	87.7%	4.4%	
		後期	情報処理概論(月5)	61	22	17	33	6	12	27.9%	54.1%	27.3%	54.5%	
13	2010	前期	情報処理概論(月4)	454	270	202	240	110	167	44.5%	52.9%	40.7%	61.9%	
		前期	情報処理概論(火4)	255	139	123	116	78	77	48.2%	45.5%	56.1%	55.4%	
14	2011	前期	情報処理概論(月4)	214	119	141	132	77	81	65.9%	61.7%	64.7%	68.1%	
		前期	情報処理概論(火4)	189	70	108	112	55	52	57.1%	59.3%	78.6%	74.3%	
15	2012	前期	情報処理概論(月3)	215	65	96	135	30	50	44.7%	62.8%	46.2%	76.9%	
		前期	情報処理概論(火4)	303	92	138	154	37	55	45.5%	50.8%	40.2%	59.8%	
16	2013	前期	情報処理概論(月3)	231	68	112	146	19	52	48.5%	63.2%	27.9%	76.5%	
		前期	情報処理概論(火4)	320	55	144	157	25	31	45.0%	49.1%	45.5%	56.4%	
17	2014	前期	情報処理概論(月3)	327	135	170	185	78	83	52.0%	56.6%	57.8%	61.5%	
		前期	情報処理概論(火4)	297	80	133	157	24	47	44.8%	52.9%	30.0%	58.8%	
18	2015	前期	情報処理概論(月3)	394	111	261	249	84	77	66.2%	63.2%	75.7%	69.4%	
		前期	情報処理概論(火4)	343	47	177	234	28	32	51.6%	68.2%	59.6%	68.1%	
合計				12,374	7,107	6,844	5,875	4,442	3,639	55.3%	47.5%	62.5%	51.2%	
回答率の平均(履修者数合計に対する回答者数合計の割合)														

※2007年度の前期月火4の最終回の調査は、病気のため代講での対応となったので、調査が実施できなかった。

※履修人数は、確定したものである。そのため、初回調査時や最終回調査時における実出席者数とは一致しない。

3. コンピュータへの興味の状況

質問内容は、

あなたは今、コンピュータに興味がありますか？ (はい いいえ)

である。授業の初回と最終回に質問している。初回と最終回を一緒に表示した集計グラフを

図 1 に示す。図 1 では、2009年度の変化率が前述の理由（母数が一桁少ない）により、変化をそのまま解釈しないものとする。したがって、コンピュータの興味は、「はい／いいえ」においては、授業の初回と最終回の調査において、ともになだらかな変化を示していると言える。

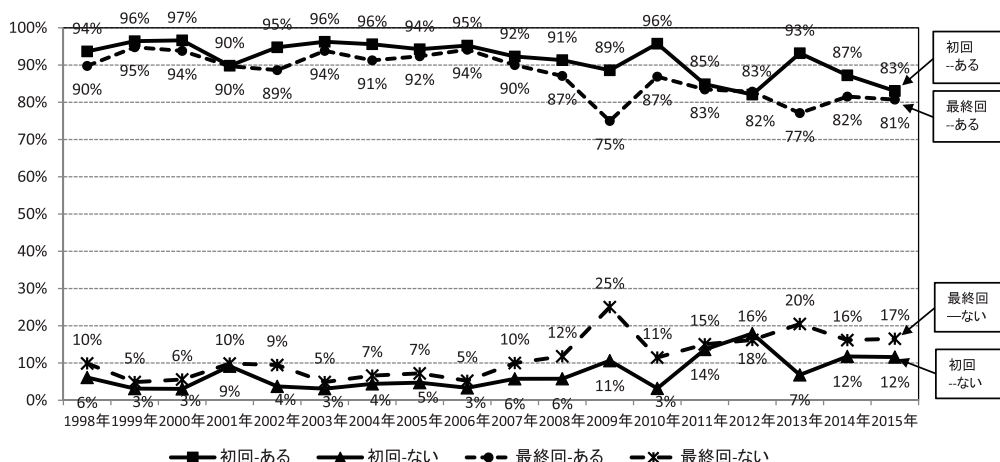


図 1 Q 4 あなたは今、コンピュータに興味がありますか？（授業の初回と最終回の調査）

図 1 の結果としては、授業の初回調査での95%の「はい」が2011年のタブレットやスマホ普及元年²⁾³⁾時代に入入するまでは続いている。授業の最終回の調査では、90%台から80%台へのなだらかな下りといえる（前述したように2009年の解釈は控える）。「コンピュータに興味ありか」のシンプルな質問であるがゆえに、調査項目の前後の質問の影響も懸念されるが、授業内容が影響しているかどうかは、これだけでは言及できない。ざっくりとは心当たりがない。

デスクトップ型からノートパソコンへ、そしてタブレット端末へ、ケータイからスマホへ、という IT 機器の家庭への普及が影響しているとも考えられないことはないが、あくまでも、これだけの結果では、仮説の段階でしかないと言えよう。

4. コンピュータに対するイメージの状況

質問内容は、

あなたのコンピュータに対するイメージを次の中から選んで下さい。（複数回答可）

1. 冷たい 2. 何でもできる 3. 硬い 4. 簡単 5. 便利
6. 難しい 7. 面白い 8. その他（ ）

である。この選択肢は1998年～2005年までのものであり、2006年からは、それまでの結果と

2) 総務省編「平成27年度情報通信白書」総務省、2015年

3) 電通総研編「情報メディア白書2016」ダイヤモンド社、2016年

学生の学習状況や反応を踏まえて、「怖い」と「必要不可欠」の2項目を追加している。
2006年から現在までは、

あなたのコンピュータに対するイメージを次の中から選んで下さい。(複数回答可)

1. 冷たい 2. 何でもできる 3. 硬い 4. 簡単 5. 便利 6. 難しい
7. 面白い 8. 怖い 9. 必要不可欠 10. その他()

である。

図2は、授業の初回の集計結果で表2を基に作成している。図2の一番上のグラフは「便利」であり、2番目グループは、「難しい」「面白い」「何でもできる」である。2006年から追加した「必要不可欠」もかろうじて入ってきている。最も回答が少ない3番手グループには残りの項目が入っているが、2006年から追加した「怖い」の比率が大きいのが気になるところである。学生の学習状況や反応を踏まえて加えた項目なので、的外れの項目でなかったと言えるが、そのようなイメージが一定数存在することは、食わず嫌いののか、知識では解決できないものなのかは、不明である。しかしながら、学生への日常的な聞き取りでは、機械が苦手という理由で納得するところもあると言えよう。

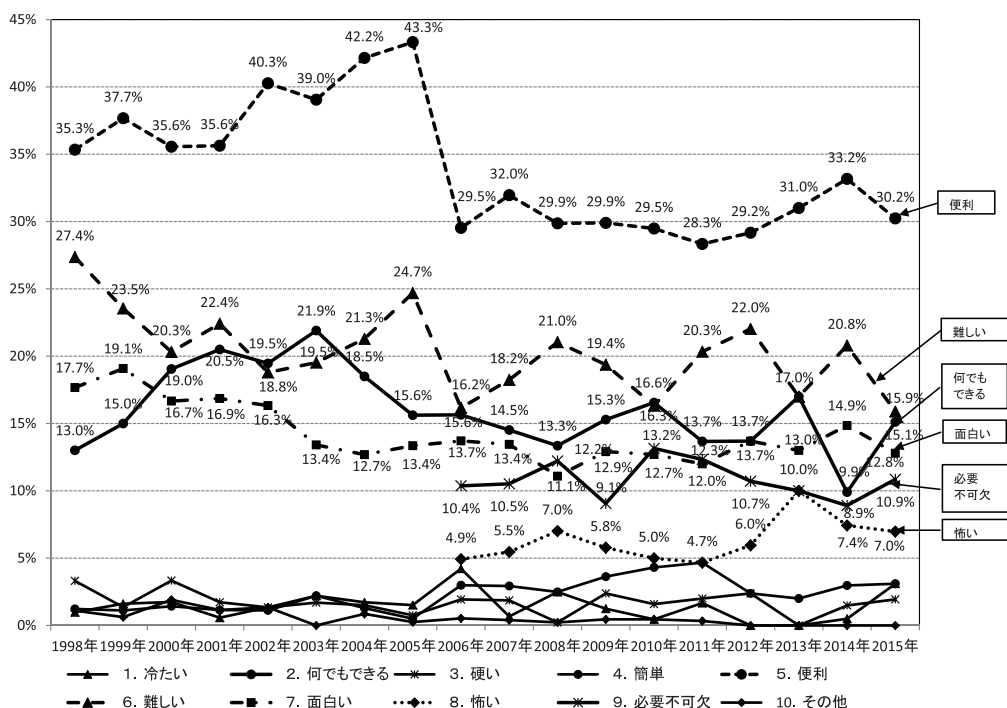


図2 Q5 あなたのコンピュータに対するイメージは？(複数回答可)(授業の初回での調査)

図3は、授業の最終回での結果を示す。上位は断トツで「便利」である。2番目グループは、「何でもできる」「難しい」「面白い」であり授業の初回の集計結果と、順位やばらつきが変動しているが、大勢は同じと言える。初回と最終回との差は、項目ごとに重ねて見るとよく分かるので、特徴的な項目を図4～6で見てみたい。

図4では、第1番目の「便利」と2番目グループの「何でもできる」を見ている。「便

表2 あなたのコンピュータに対するイメージはの回答比率【授業の初回】

年代	1. 冷たい	2. 何でもできる	3. 硬い	4. 簡単	5. 便利	6. 難しい	7. 面白い	8. 怖い	9. 必要不可欠	10. その他	計
1998年	1.0%	13.0%	3.3%	1.2%	35.3%	27.4%	17.7%			1.1%	100.0%
1999年	1.6%	15.0%	1.4%	1.1%	37.7%	23.5%	19.1%			0.6%	100.0%
2000年	1.7%	19.0%	3.3%	1.4%	35.6%	20.3%	16.7%			1.9%	100.0%
2001年	0.6%	20.5%	1.7%	1.1%	35.6%	22.4%	16.9%			1.1%	100.0%
2002年	1.3%	19.5%	1.3%	1.1%	40.3%	18.8%	16.3%			1.3%	100.0%
2003年	2.2%	21.9%	1.7%	2.2%	39.0%	19.5%	13.4%			0.0%	100.0%
2004年	1.7%	18.5%	1.5%	1.3%	42.2%	21.3%	12.7%			0.9%	100.0%
2005年	1.5%	15.6%	0.8%	0.5%	43.3%	24.7%	13.4%			0.3%	100.0%
2006年	4.2%	15.6%	1.9%	3.0%	29.5%	16.2%	13.7%	4.9%	10.4%	0.5%	100.0%
2007年	0.7%	14.5%	1.9%	2.9%	32.0%	18.2%	13.4%	5.5%	10.5%	0.4%	100.0%
2008年	2.5%	13.3%	0.2%	2.5%	29.9%	21.0%	11.1%	7.0%	12.2%	0.2%	100.0%
2009年	1.2%	15.3%	2.4%	3.6%	29.9%	19.4%	12.9%	5.8%	9.1%	0.5%	100.0%
2010年	0.5%	16.6%	1.6%	4.3%	29.5%	16.3%	12.7%	5.0%	13.2%	0.5%	100.0%
2011年	1.7%	13.7%	2.0%	4.7%	28.3%	20.3%	12.0%	4.7%	12.3%	0.3%	100.0%
2012年	0.0%	13.7%	2.4%	2.4%	29.2%	22.0%	13.7%	6.0%	10.7%	0.0%	100.0%
2013年	0.0%	17.0%	0.0%	2.0%	31.0%	17.0%	13.0%	10.0%	10.0%	0.0%	100.0%
2014年	0.5%	9.9%	1.5%	3.0%	33.2%	20.8%	14.9%	7.4%	8.9%	0.0%	100.0%
2015年	3.1%	15.1%	1.9%	3.1%	30.2%	15.9%	12.8%	7.0%	10.9%	0.0%	100.0%

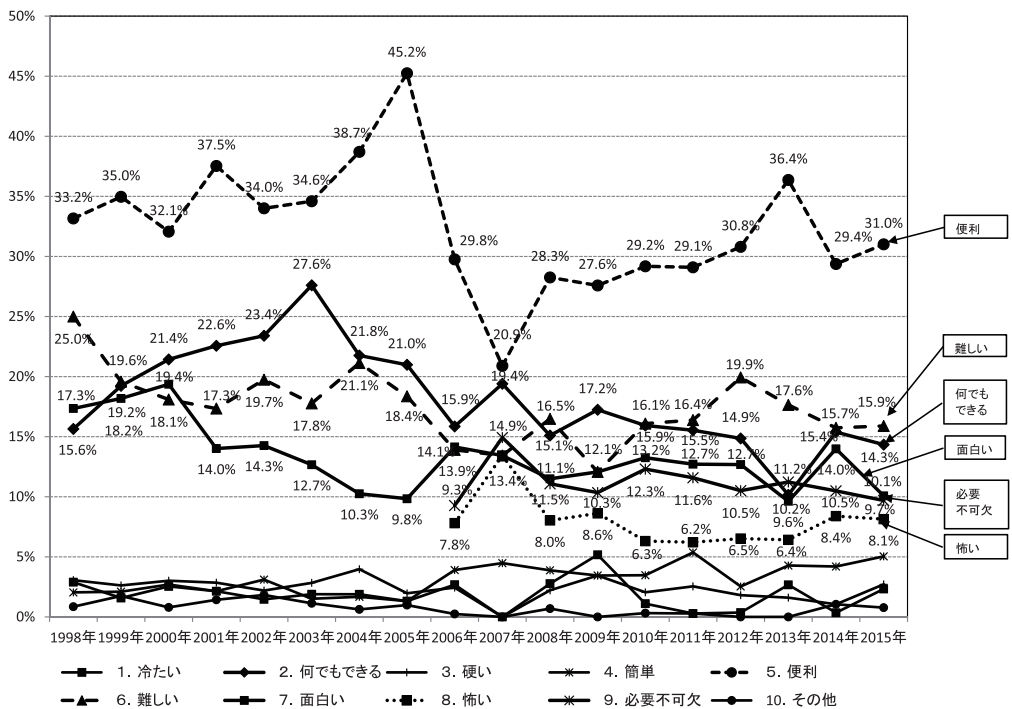


図3 Q5 あなたのコンピュータに対するイメージは？（複数回答可）（授業の最終回での調査）

利」については、2005年から2006年の大きな変化は、高等学校での情報教育の必修化による学習者の意識の変化と読み取ることが可能である。実際に学習してみた結果「便利」で「何でもできる」が表面的であったということと言えよう。本科目でも唱えているように、ある

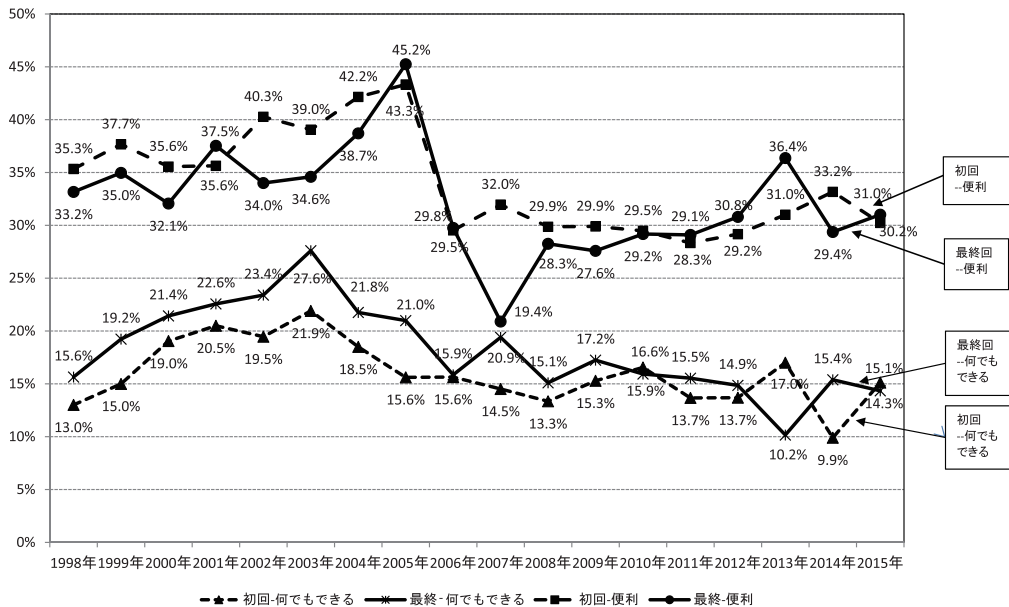


図4 Q5 あなたのコンピュータに対するイメージは?(複数回答可)―何でもできる・便利―(授業の最終回での調査)

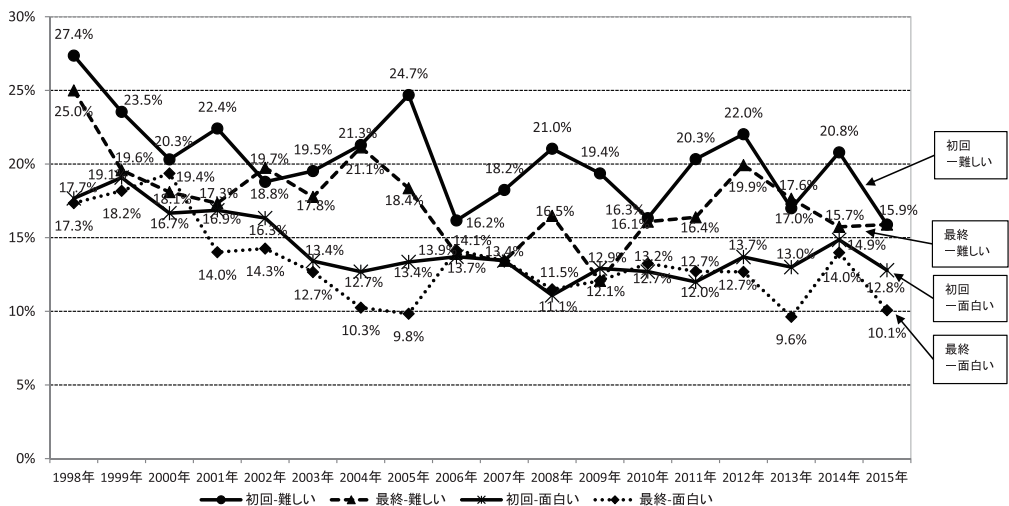


図5 Q5 あなたのコンピュータに対するイメージは?(複数回答可)―難しい・面白い―(授業の最終回での調査)

程度の知識・スキルの裏付けがあってこそその「便利」さであることに意識が変化したという、推測は可能である。もちろん、断定はできない。

図5を見ると「難しい」ということに関しては、若干ながら、本授業によって取り除けているように読み取れる。また、「面白い」ということには、特に影響は与えられていないが、本授業内容の守備範囲外なので、当然の結果と言える。

図6は、「冷たい」「怖い」というマイナスイメージを表わしている。2007年と2009年の母

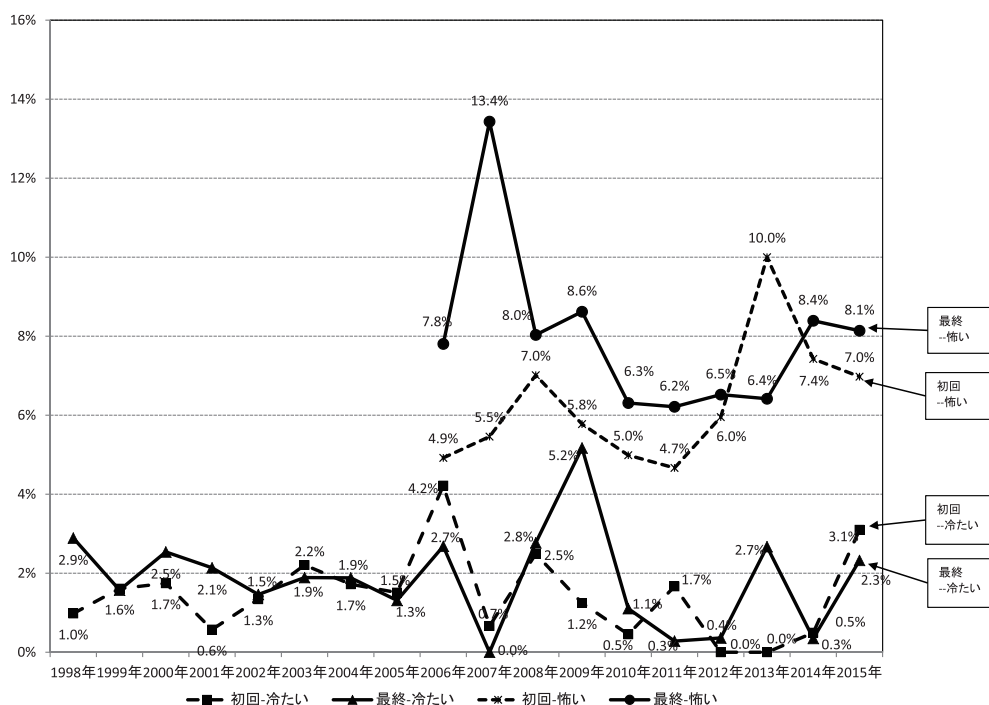


図6 Q5あなたのコンピュータに対するイメージは？(複数回答可)―冷たい・怖い―(授業の最終回での調査)

数に関する影響を除けば、一定数の者がいることが分かる。特に「怖い」に関しては前述したように、知識で解決できるものであるのか、今後は幅広い視野から検討していく必要があると言えよう。

5. 卒業後にコンピュータにどのように関わりたいかの状況

質問内容は、

あなたは卒業後、社会人として、コンピュータとどのように関わりたいと思っていますか？

1. 仕事としてコンピュータに積極的に関わりたい。
2. 仕事としてある程度コンピュータと関わってもよい。
3. 自分で個人的にコンピュータを利用できる程度でよい。
4. コンピュータとはあまり関わりたいくない。

である。以下の表3と表4が集計結果である。これに基づいて、グラフを示し、検討していく。

表3をグラフ化したものが図7で、表4をグラフ化したものが図8である。図7は授業の初回での調査結果であるが、18年間のトレンドにおいて「ある程度関わってもよい」が40%台から50%台へのなだらかな上昇カーブであるのに対して、「積極的に関わりたい」が30%台から20%台へのなだらかな下降カーブである。また、「利用できる程度でよい」は、現状

表3 「あなたは卒業後、社会人として、コンピュータとどのように関わりたいと思っていますか」(授業の初回の調査)

選択肢	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
積極的に関わりたい	29%	34%	29%	27%	35%	31%	27%	35%	31%	32%	17%	27%	29%	27%	19%	16%	26%	24%
ある程度関わってもよい	43%	41%	47%	47%	41%	45%	50%	51%	54%	53%	57%	53%	54%	48%	55%	59%	51%	54%
利用できる程度でよい	23%	21%	18%	21%	18%	19%	18%	13%	13%	13%	20%	14%	14%	16%	21%	20%	14%	14%
あまり関わりたくない	2%	0%	2%	2%	1%	2%	1%	0%	1%	1%	2%	3%	2%	4%	3%	5%	5%	4%
無回答	3%	4%	4%	2%	6%	3%	3%	1%	1%	1%	4%	4%	2%	5%	1%	0%	4%	3%

表4 「あなたは卒業後、社会人として、コンピュータとどのように関わりたいと思っていますか」(授業の最終回の調査)

選択肢	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
積極的に関わりたい	22%	30%	33%	28%	24%	26%	26%	32%	29%	30%	20%	25%	22%	24%	14%	24%	21%	21%
ある程度関わってもよい	46%	45%	44%	47%	48%	43%	52%	49%	52%	45%	53%	35%	54%	50%	58%	54%	48%	51%
利用できる程度でよい	26%	23%	19%	21%	23%	25%	20%	16%	14%	25%	21%	30%	18%	16%	20%	16%	25%	18%
あまり関わりたくない	4%	1%	2%	1%	3%	2%	1%	2%	1%	0%	4%	0%	2%	5%	5%	2%	5%	4%
無回答	2%	1%	2%	3%	2%	4%	1%	1%	3%	0%	2%	10%	4%	5%	3%	4%	2%	6%

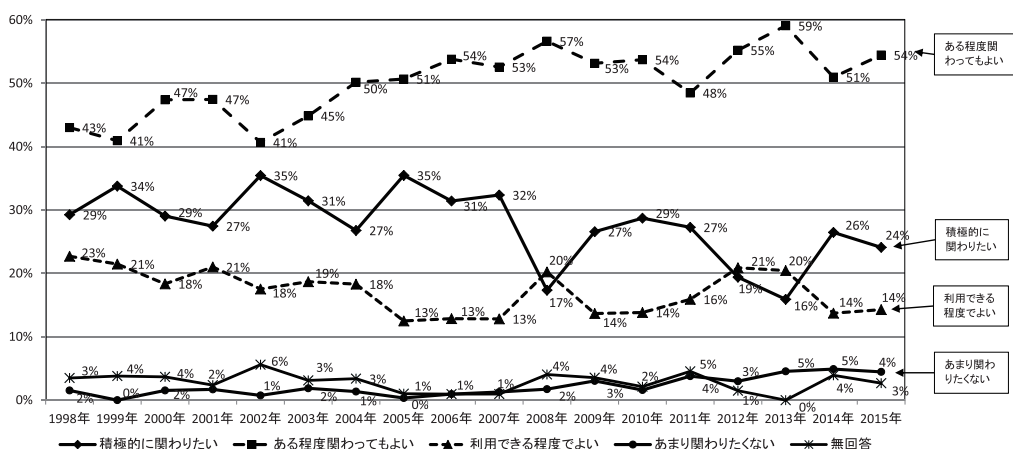


図7 Q7卒業後の希望として、コンピュータとどのように関わりたいと思っていますか?(授業の初回での調査)

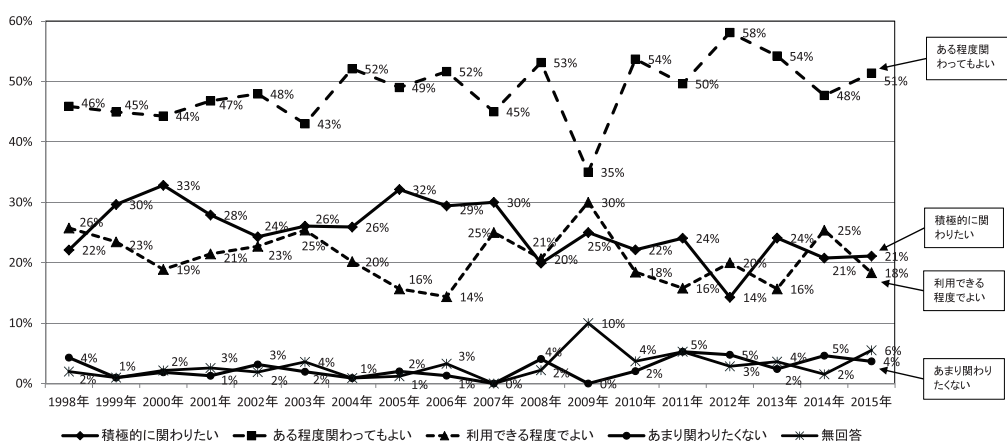


図8 Q7卒業後の希望として、コンピュータとどのように関わりたいと思っていますか?(授業の最終回での調査)

維持の20%台でやや下降気味であり、「あまり関わりたくない」が数%で一定数存在することが分かる。この傾向は図8の授業の最終回での調査の回答結果でも同様である。それぞれ

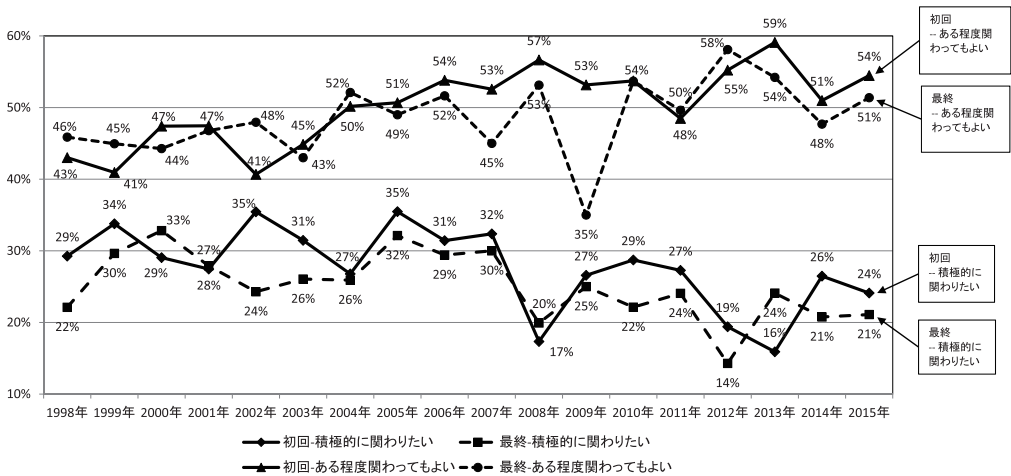


図9 Q7卒業後の希望として、コンピュータとどのように関わりたいと思っていますか？-関わりたい（授業の初回と最終回の調査）

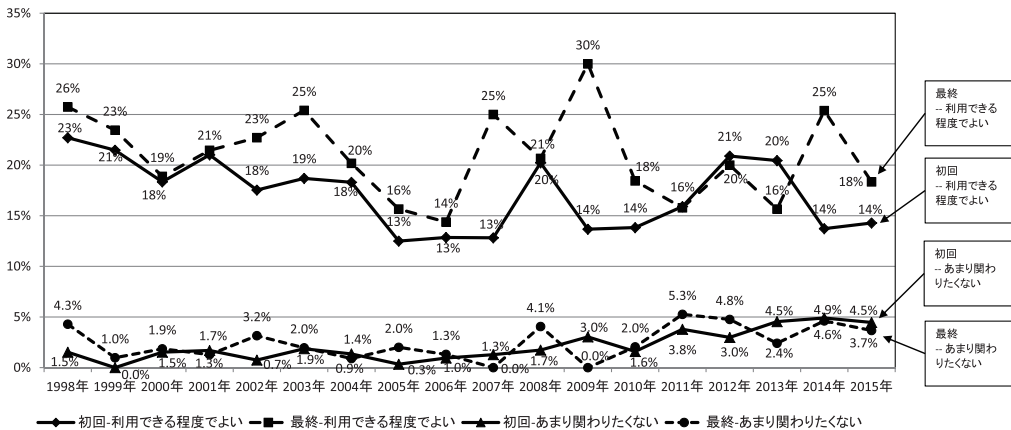


図10 Q7卒業後の希望として、コンピュータとどのように関わりたいと思っていますか？-関わりたいくない（授業の初回と最終回の調査）

の項目で初回と最終回のグラフを重ねてその傾向を見てみよう。

図9は、「積極的に関わりたい」と「ある程度関わってもよい」の初回と最終回のグラフを重ねたものである。やはりここでも2007年と2009年の特異データの影響は除外してグラフを見るものとする。パターンの的には、2006年以降にUPとDOWNが交互にあるように見える。初回と最終回のデータが同様にUPとDOWNしていることから、本科目の授業内容が影響しているとは考えにくい。初回授業でのデータは、やはり高等学校での情報教育で受け取ったものが、何らかのイメージとして影響していると考えことは可能である。しかしながら、受講者の母数の変化が影響していることも考慮しなければならない。統計的にはサンプル数が3桁あれば一定の評価は可能であるが、表1による受講者数の凸凹の影響は無視できないと考えるのが妥当である。これらを踏まえても、「積極的に関わりたい」と「ある程度関わってもよい」が数年ごとに交差していることから18年間のトレンドとしては、「ある程度関わってもよい」は上昇傾向、「積極的に関わりたい」は下降傾向と読み取ってよいであろう。さらに、図10では、「利用できる程度でよい」は、移動平均をとるならばやはり下

降であり、「あまり関わりたくない」は現状維持と言えよう。

6. おわりに

今回の調査対象となった科目「情報処理概論」では、特に、情報＝コンピュータではないことも伝えている。コンピュータ（パソコン）やインターネットそのものが「情報」でないことを意識させるようにしている。社会で働く人々は、みんな情報に関わるのであるから、情報を活用しないと、社会生活が成り立たなくなっている時代であることを強調している。さらに、本科目はコンピュータの授業ではなく、情報の授業であることを強調している。コンピュータは万能ではなし、AIも万能ではない。コンピュータに正しいイメージを持って欲しいと願った授業である。学生に学んで欲しいこと・態度は、コンピュータに使われるより、使ったほうが賢いということである。コンピュータは怖くない、である。このような授業において、今回得られたデータは、授業内容の影響云々は即時的には何も言及できていないが、初年次生が持つコンピュータのイメージは、数年来の劇的とも思えるIT環境の変化（デスクトップ型からノートパソコンへ、そしてタブレット端末へ、ケータイからスマホへ、メールからSNSへ、などなど）の中においても、ゆるやかな変化を遂げているということが分かった。その変化は確実に授業内容をも変えていくものであることを十分に覚悟することで、本稿のまとめとしたい。

付録 アンケート調査票（1998－1999年度）

今後の授業の参考にさせて頂きたいと思いますので情報教育に関するアンケート調査にご協力をお願いします。成績には一切関係しませんので正直に回答して下さい。 年 月 日

科目名 学年 クラス番号 氏名

Q 1 . あなたの考える情報教育の学習目的について当てはまるものは下記のどれですか？

複数回答をしてもかまいません。

- 1 . コンピュータのことを勉強すること。
- 2 . ワープロを使えるようになること。
- 3 . 自分でプログラムを作れるようになること。
- 4 . コンピュータを道具として使用して、いろいろな処理をすること。
- 5 . 必ずしもコンピュータを利用しなくてもよい。情報を上手に利用出来るようになること。
- 6 . データベースやパソコン通信を利用して、情報を得たり発信したりすること。
- 7 . その他、あなたが情報教育であると考えることがあれば書いて下さい。

()

Q 2 . あなたは「情報」を意識していると思いますか？

- 1 . はい
- 2 . いいえ

A . 「1 . はい」と答えた方に聞きます。

どんな場面で情報を意識していると思いますか？

()

Q 3 . あなたが多く情報を得ていると思われる順に番号をつけて下さい。

- () 新聞 () ラジオ・テレビ () 本 () 雑誌
 () チラシ・パンフレット () 家族 () 友人 () アルバイト
 () その他 ()

Q 4 . 大学入学までに情報教育を受けた経験がありますか？

- 1 . はい
- 2 . いいえ

A . 「1 . はい」と答えた方に聞きます。どこで受けましたか？

- 1 . 中学校
- 2 . 高等学校
- 3 . 専門学校・各種学校
- 4 . テレビ・ラジオ講座
- 5 . 家庭
- 6 . その他 ()

B . どのような学習をしましたか？

- 1 . ワープロ
- 2 . 表計算
- 3 . データベース
- 4 . プログラミング
- 5 . パソコン通信・インターネットなど
- 6 . その他 ()

C . 「4 . プログラミング」と答えた方に聞きます。

プログラミング言語は何を使用しましたか？

- 1 . コボル
- 2 . フォートラン
- 3 . ベーシック
- 4 . その他 ()

Q 5 . あなたは今、コンピュータに興味がありますか？

- 1 . ある
- 2 . ない

